

言語についての知識・理解・技能	○ 句読点を適切に打ち、段落の始めなど必要な箇所は行を改めることができる。
-----------------	---------------------------------------

④ 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・ 情報を読み手に分かりやすく伝えるため、写真などの視覚に訴える資料を活用し、工夫しながら書くようにしている。	・ クラブ活動をリーフレットにして説明するという目的に応じて、写真や経験、インタビューしたことなどから、説明の目的に応じた内容を選んで書く。 ・ 伝えたいことを明確にし、それに合わせて視覚化したり具体化したりして説明するために写真と文章を関係付けて説明する文章を書いている。 ・ 友達の書いた文章を読んで、伝えたいことがよく伝わるかどうかについて意見を述べ合っている。	・ 文章を読みやすくするために、文脈に合わせて読点を適切に打ちながら書いている。

⑤ 単元の指導計画

<国語科> 学習活動 (総時数10時間)	
1、クラブ活動のよさや楽しさについて話し合い、学習課題を設定する。②	(1) 自分のクラブ活動について、楽しかったことやよさを出し合い、友達に紹介するための文章を書く見直しをもつ。 (2)リーフレットの特徴や内容を話し合い、学習計画を立てる。 : サンプル文集A 交流 (説明文の特質について理解し、自分なりの学習計画を立てる)
2、他のクラブに所属している友達に向けてリーフレットを作る。④	(1)伝えたいことの中心や写真を決め、情報を集める。 (2)(3)写真に合ったメモを選び、伝えたいクラブのよさに合うよう書く材料を選び構成していく。 : 交流 (「伝えたいクラブのよさ」についての自分の考えをもてるようにする)
(4)構成シートをもとに説明文の下書きをする。 : サンプル文集B (自分の課題に合った記述を参考にする)	
3、前時に書いた説明文が読み手に分かりやすい文になっているかどうかを見直す。①	: サンプル文集B (見直しの手がかりとする) 交流 (説明文の特質やよりよい表現についての理解を深める)
4、自分の伝えたいことやクラブ活動の楽しさが伝わるように工夫し、リーフレットを清書する。①	
5、お互いのリーフレットを読み合い、感想を交流し、これからの活動に生かす。②	(1)リーフレットを読み合い、表現や内容のよさを見付け合う。: 交流 (表現の工夫の仕方についての理解を深める)
	(2)単元を振り返り、よりよい説明文の書き方について学んだことをまとめる。

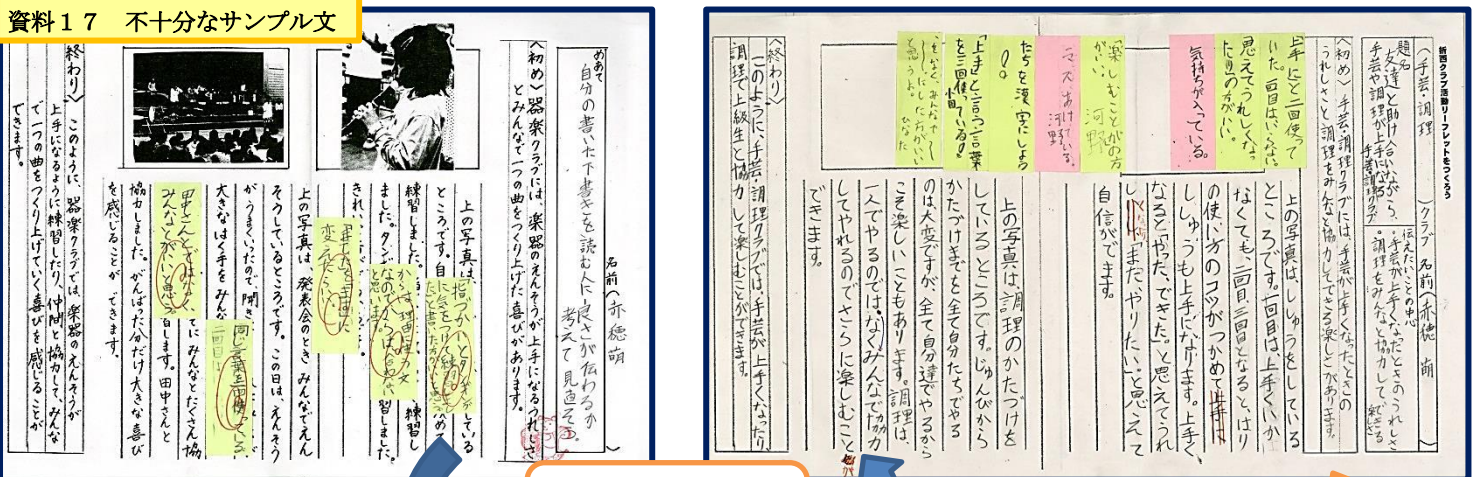
⑥ 指導の実際

【着眼1】 交流活動を位置付けた学習展開を行う

<着眼1-①> 一次表現の課題に気付き、見直しための交流活動を行う。

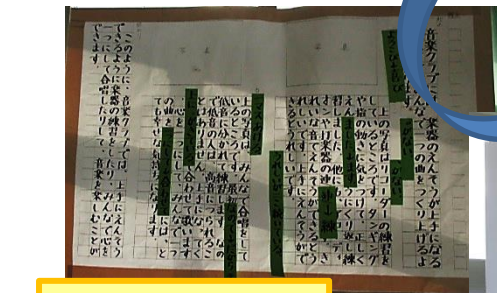
サンプル文集を手がかりにしながら、取材・構成・下書きと進めた後、それを見直しための交流活動を行った。

資料17 不十分なサンプル文



全体交流で見つけた見直しのポイント

グループ交流で友達にアドバイスをもらった



資料18 見直しの観点

見直しのポイント
漢字のまちがいを訂正
句読点を適切に打つ
段落の始めは、一字下げして
写真と文があっているか



資料19 グループ交流

まず、教師の不十分なサンプル文を提示し、それを読んで、「グッドカード（よい点）」と「チャレンジカード（課題）」を各自で貼った（資料17）。そして、その成果を学級全体で出し合い、見直しの観点（資料18）をつかんだ。その後、自分でも同様の見直しの活動を行い、さらにグループでの交流活動も行った。児童は、書いた下書きから、自分の課題を見つけるのは困難であった。伝えたいことが漠然としており、読み返しの視点をつかんでいなかったからであった。しかし、「グッドカード」と「チャレンジカード」を学級全体で交流する活動や、取材の段階から一緒に活動を進めている同じクラブの友達と交流し合う活動を通すことによって、資料19のように、「書いている内容がクラブのよさを伝えているか」という点や「読む人が具体的にイメージしやすいか」という点などについて振り返りながら見直すことができるようになっていった。よりよい言葉や文章に書き直すための視点を明確にできたのである。

〈着眼1ー②〉よりよい表現をめざし、自分の表現に生かす交流活動

よりよい表現になるよう、「取材」「構成」において、交流活動を取り入れた。それぞれの場面の内容は以下の通りである。

○ 取材

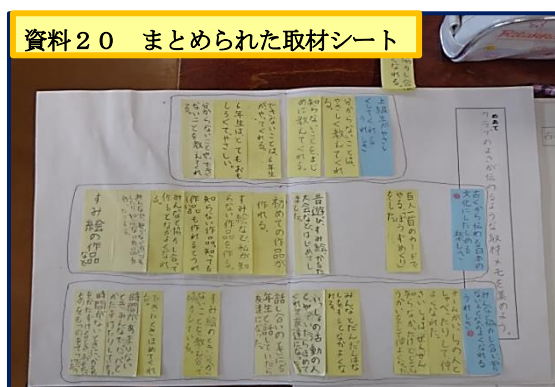
児童が、これまで書きためておいたクラブ活動ノート感想やサンプル文集Bを手元に置きながら取材を行った。また、児童はこの他にも特別活動で行った「クラブのじまん大会」を思い出しながら、クラブのよさについて付箋に書いていった。しかし、自分の取材の観点が漠然としたままの児童は、取材メモが足りない状態であった。そこで、取材の視点を広げるための交流を仕組んだ。

取材が終わった後、同じクラブの友達と取材メモを見せ合った。取材メモが足りない児童も友達のメモを見ながら、参考にして、メモを増やしたり、似たメモをまとめたりすることができた。また、メモの内容が伝わりにくいメモについてもアドバイスし合って、書き直したりすることもできた。資料20のように、一つのクラブのよさ（青付箋）に対して、その根拠・事例などの事実（黄付箋）を複数集めることができていた。交流を通して、児童の取材の観点が明確になったこと、視点も広がったことが伺える。また、伝えたいことを適切に伝えるための材料を工夫して集めている姿が表れた場面でもあった。

○ 構成

児童は、たくさんの取材メモを集め、複数の写真を用意していた。また、伝えたいことも、これまでの交流を通して、徐々に明確になってきていた。しかし、このまま構成を考えさせるとすべてを使った伝えたいことの内容を意識しない大雑把な構成にしてしまうことが予想された。

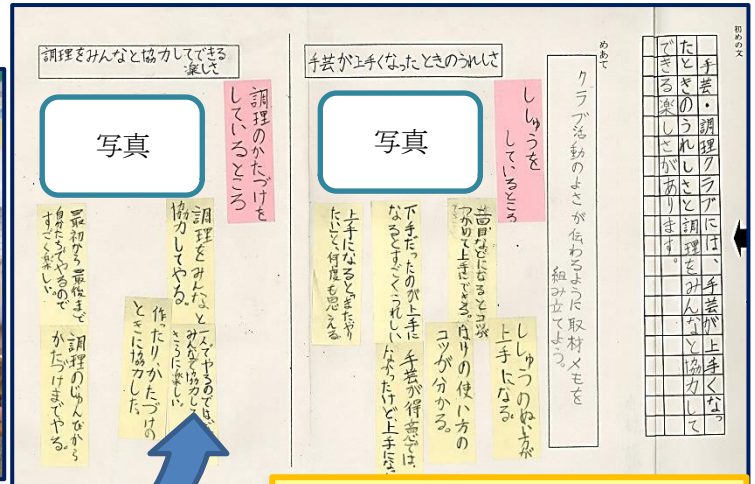
そこで、児童が集めた取材メモを選材し、構成シートを作っていくために教師の構成のサンプルを提示し、組み立て方について、意見を交流する学習を設定した（第二次2時 資料21）。教師のサンプルをみんなで使い、構成を一緒に考えていながら、構成の仕方や選材の観点について自分たちで見出す話し合いを行った。この話し合いで、構成で気をつけるべき点を明確につかむことができたため、自分の構成を行うときもとてもスムーズであった。また、構成シートを友達と交流することで、「選んだ付箋がクラブのよさに合っているか」、「写真にあった説明になっているか」についての話し合いも適切に行われ、伝えたいことの内容に合った整った構成にしていくことができていた（資料22）。



資料2 1 構成のサンプル



みんなで交流して構成の観点を見付けた。



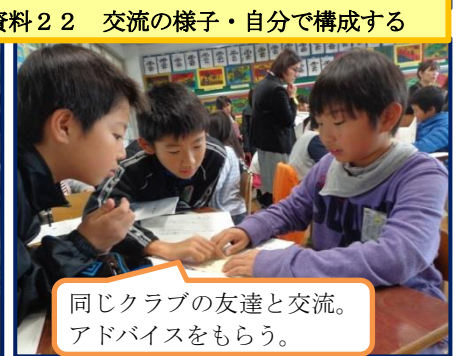
資料2 2 交流の様子・自分で構成する

〈着眼1-③〉自分の学びを
実感できる交流活動

友達のリーフレットを読み合い、互いのよいところを見付けたり、友達の表現のよさに気付いたりすることをねらいとして、交流する活動を設定した。(資料2 3)



自分の伝えたいことに応じて構成していく。

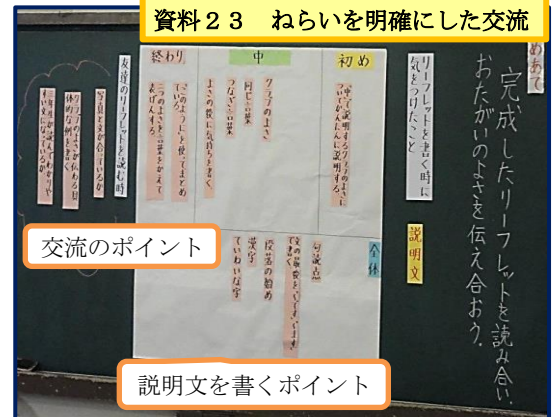


同じクラブの友達と交流。アドバイスをもらう。

はじめに、説明文を書くポイントを想起する活動を取り入れた。この活動によって、児童はこれまでの学習で、どのようなことに留意してリーフレットに載せる説明文を書いてきたかを振り返り、発言することができた。ポイントを出すことができない児童には、掲示物から自分が留意してきたポイントを選ぶことができるようにしたところ、付箋に書き出すことができた。

次に、児童が出したポイントの中から、「写真と文が合っているか」「クラブのよさが伝わる具体例が書けているか」「読み手(3年生)が読んで分かりやすくなっているか」を抽出した。これは、本単元で児童が身に付けたい力であり、児童の発言をもとに提示したことで、互いのリーフレットを読むための視点を明確にすることができた。また、友達が書いたグッドカードを読むことで、自分の学習を振り返り、成長した点を実感することができた。この活動は、この単元を通して、自分の中で、漠然としていた考えが明確になったことを振り返ること、相手にうまく伝えるために説明文で組み立て等を工夫して、うまく表現できたことの2点を自覚させる大切な学習となった。

資料2 3 ねらいを明確にした交流



交流のポイント

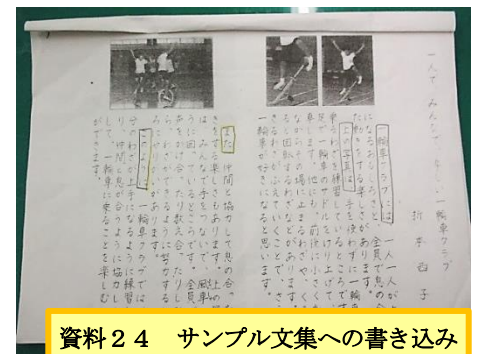
説明文を書くポイント

【着眼2】文種に応じて、重点化した内容の書く指導の工夫を行う。

〈着眼2-①〉ねらいを明確にしたサンプル文の活用

○ 取材・構成の段階

取材・構成の段階では、文集中のサンプル文を読みながら、「はじめ」「中」「終わり」について意識させたり、クラブのよさについての具体例としてどんなことをのせたらいいか、考える手だてにしたりした。また、資料2 4のように、伝えたいことを伝えるための語彙力、文章力が育っていない児童が、「この言葉は参考になる。」



資料2 4 サンプル文集への書き込み

自分が書くときに使える」と言って線を引く児童の姿も見られた。

サンプル文集は、児童がこれから仕上げていく説明文のできあがりのイメージを明確にし、考えがまとまらず、迷ったときに参考にできるという点で、個に対応できるというよさがあった。

〈着眼2-②〉多様なサンプル文にふれ、児童が自分の伝えたいことに応じた表現方法を工夫することができるようサンプル文集を活用する。

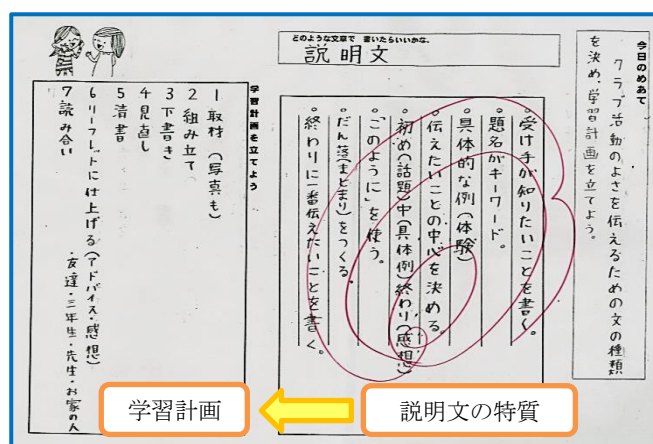
サンプル文集A	中学年で学習する文種
	・意見文 ・調査報告文(2種) ・説明文(2種) ・手紙文
サンプル文集B	説明文(5種類)
	・スポーツ系のクラブと文化系のクラブが入っていること
	・伝えたいクラブのよさが一つの文章と二つの文章
	・活動自体のおもしろさを伝える文章と仲間とのかかわりのよさを伝える文章
	・伝えたいよさについての具体例のあげ方が基本的な文章と少し工夫をした文章

単元に入る前にチャレンジタイムにおいて、サンプル文集A(前年度までの児童作品)を視写する活動を取り入れた。そうすることで、文章の構成、特徴などを意識することができた。

○ 課題設定の段階

第一次2時では、伝えたいことを伝えるため、リーフレット形式にどんな文種がふさわしいかを考える場面を設定した。ここではサンプル文集Aを使って話し合い、説明文で書いていきたいということを自分たちで決定した。説明文がどんな構成であり、どんな特徴であるかについても、このサンプル文集Aを手がかりにしながらかし合った。

資料25のように、「説明文の特質」「学習計画」をサンプル文集A等を使って話し合うことで、不明確であった文種のイメージをはっきりとつかむことができた場面であった。



資料25 説明文の特質・それに応じた学習計画

○ 取材・構成・記述の段階

〈着眼2-①〉で述べたように、児童が相手に分かりやすい文章を書き上げる際に困難を感じた時に、具体的な事例としてサンプル文集Bを読む活動を取り入れた。そうすることで、児童はリーフレットの作成において、

「どんなことを取材したらよいのか」「どんなことを書いたらよいのか」「どんなふうを書いたらいいのか」の書く活動の節目節目で、サンプル文を比較したり、参考にしたりしながら、見通しをもって活動を進めることができた。また、資料26の児童の感想からも分かるように、サンプル文を読む目的を明確にもたせて、比較・参考にさせるよう仕向けることで、漠然として分からなかったことや、発想が浮かばなくて困っていたことを、明確に理解させ聞かせたり、考え直させたりする活動へと導いていくことができた。

⑦ M児の変容

○ 課題設定

M児は、本単元導入前に行った1学期のクラブの振り返りでは、「工作で失敗したりするけれどそれはいい経験になっていると思います。」の一言しか書くことができなかった。しかし、毎回振

児童の感想から

資料26 学習後の感想

この学習をしてわたしは、説明文の書き方がよく分かりました。はじめ、私は説明文の書き方が分かりませんでした。でもサンプル文集Bをもらったとき、どう書けばいいのかが分かってリーフレットを書くことがしやすかったです。少しずつ書くことが楽しくなってきました。わからなくなったときは、サンプル文集を見直しました。

り返りをする度に、資料27のようにクラブのよさへの気付きが増えていった。「6年生がかわいいねと言ってくれてうれしかった。」「6年生がうまく平らにしてくれたのでうまくできました。」「6年生のアドバイスはうれしいです。」などと、書くことができるようになった。

さらに、＜着眼1-①②＞のような交流活動を経験することで、「同じクラブの友達とどんなところに楽しさを感じているか」「うれしかったことはどんなことか」などを互いに話し合うことで、図工クラブのよさについて考えをまとめていくことができた。M児は、漠然とした感想から、資料27にあるように「図工クラブが楽しいことを三年生に知らせたい」という思いを明確にもつことができ、考えがまとまり、深まっていることが分かる。

○ 取材

伝えたいことが明確になってきたM児であったが、クラブについてイメージマップを書いた際、クラブのよさをあまり書くことができなかつた。つまり、伝えたいことを伝えるための材料をどう集めればよいか工夫できないでいたのである。＜着眼1-②＞の交流などを通して、徐々に取材メモを増やしていくことができた。メモの内容を細かく見ていくと、同じような内容のものがたくさんあった。例えば「上級生と仲良くなればほめてもらえる」「6年生たちがきれいな色だねと言ってくれる」のようなものや、「上級生が手伝ってくれる」「砂絵のとき、新聞をひくのを手伝ってくれる」のようなメモである。

しかし、同じクラブの友達との交流を通して、「同じ意味のものはまとめた方がいいよ」という助言をもらったことをきっかけとして、M児はメモをまとめ始め、資料28のように、クラブのよさを3点（青）に、書く内容のカードをまとまりごとに並べることができた。交流を通して、伝えたいことを伝えるために、相手に分かりやすい材料を工夫して集めるといふ適切に表現する力を発揮することができた。

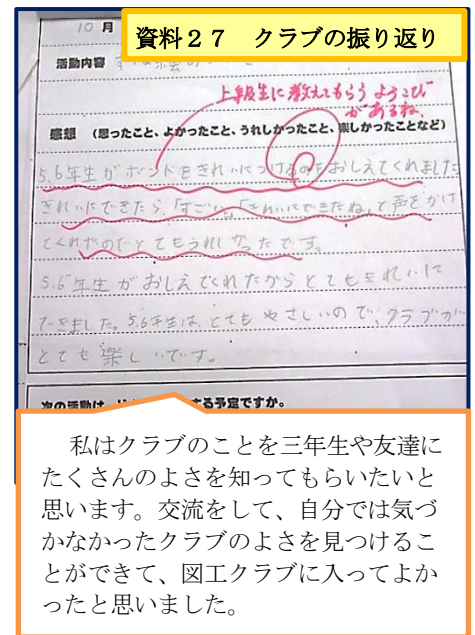
○ 構成

まず、伝えたいクラブのよさにあった写真を選んだ。構成の段階では、スムーズに取材メモを写真に合うように決めることができた。取材メモを分かりやすくまとめていたので、M児は自分の力でやっていくことができ、喜びを感じている様子であった。交流時にも、同じクラブの友達に自分の構成を見せながら、説明することができた。また、友達構成にも「クラブのよさにあっているメモになっていいね」といって声をかけることができていた。組み立てを考え、工夫するといふ適切に表現する力の伸びを感じることができた。

○ 記述

構成をもとにした下書きの段階では、少し戸惑いを見せた。取材メモは選んで並べたが、そのまま文章にするだけだったので、クラブのよさは伝わりそうにないという実態であった。

そこでサンプル文集Bを参考にするように声をかけた。M児は、サンプル文を読みながら、「は



私はクラブのことを三年生や友達にたくさんよさを知ってもらいたいと思います。交流をして、自分では気づかなかったクラブのよさを見つけることができ、図工クラブに入ってよかったと思いました。

